

日蓮大聖人御書全集

みょうしんあまごぜんごへんじ

妙心尼御前御返事

ごほんぞんごじ こと

（御本尊護持の事）

新版
1965

みようしんあまごぜんごへんじ　ごほんぞんごじ　こと
妙心尼御前御返事（御本尊護持の事）

けんじがんねん　がつ　にち　さい　くぼのあま
建治元年（'75）8月25日　54歳　窪尼

種々　おんこころざし　おく　た　そうら　お
すずの御志、送り給ひ候い了わんぬ。

幼　ひち　おん　授　そうら
おさなき人の御ために、御まぼりさずけまいらせ候。

おん　ほけきよう　内　肝　心　いつさいきよう
この御まぼりは、法華經のうちのかんじん、一切經の

眼　目　そうら　てん　にちがつ　ち　だいおう　ひと
げんもくにて候。たとえば、天には日月、地には大王、人

こころ　宝　なか　によいほうしゆ　珠　家　柱
には心、たからの中には如意宝珠のたま、いえにははしら

そうら
ようなることにて候。

曼　荼　羅　み　持　おう　ぶし　守
このまんだらを身にたもちぬれば、王を武士のまぼるが

ごとく、子^こをおやのあいするがごとく、い^いおの水をたのむ^{魚 頼}

そうもく

雨

願

鳥

き

がごとく、草木のあめをねがうがごとく、とり^鳥の木をたの

いっさい

ぶっしんとう

集

守

ちゅうや

影

むがごとく、一切の仏神等の、あつまりまぼり、昼夜^{ちゅうや}にかけ

守

たも

ほう

そうろう

ごしんよう

のごとくまぼらせ給う法にて候。よくよく御信用あるべ

きようきようきんげん

し。あなかしこ、あなかしこ。恐々謹言。

はちがつにじゅうごにち

にちれん

かおう

八月二十五日

日蓮

花押

みょうしんあまごぜんごへんじ

妙心尼御前御返事